

近年耕作放棄地が民家近くまで広が
りつつあるため、シカやイノシシが
民家近くの雑草地に生息しているこ
とも想定される。

◆赤松 俊 二一 議員

【7月12日実施の総合防災訓練につ いて】

問 地区別参加世帯、参加者数について
答 参加世帯2,340世帯、住民参
加者数3,577人の方の協力により
実施することができた。なお、鬼北
交番、鬼北消防署および鬼北町職員
計117人、消防団員353人を含
めると、4,047人の参加であった。

**問 アンケート結果を踏まえ、町とし
てどのように対応するのか。**

答 次の3点について、今後の対応の
必要性を感じている。

一つ目は、一時避難場所から避難
生活をするための指定避難所への移
動についてである。「避難所まで遠
い、急な坂があるなど高齢者にとっ
て移動は無理がある」などの意見へ
の対応として、集落内にある集会所
等を臨時避難所として開設できるよ
う検討していく。

二つ目は、避難行動要支援者の避
難支援についてである。「避難行動
要支援者への声掛け支援・安否確認
の徹底が図れなかった」との意見を
踏まえ、同意を得て作成した避難支
援プランを活用して、関係機関と連
携を図っていく。鬼北町自主防災組
織等連絡協議会において、障がい者
団体等と連携するなど、企画段階か
ら避難行動要支援者の防災訓練への
参加の機会を拡充したい。

三つ目に、「防災訓練のレベルアッ
プを図ってほしい」という意見をい

た。今回の訓練では、住民の
避難訓練、一部の自主防災組織の独
自訓練、消防団情報伝達訓練、避難
所開設訓練などを実施したが、今後
は、住民が参加した避難所開設・運
営訓練の実施、避難行動要支援者が
参加しやすい工夫や支援を取り入れ、
防災士の役割を明確にした訓練を検
討したい。また、平日や夜間の実施
も検討していきたい。

**問 各関係機関等と情報の共有化を図
ることができたか。**

答 住民側から消防団の移動系防災無
線の手段を使って、避難者情報を災
害対策本部まで伝達・共有した。ま
た、愛媛県地震被害想定調査に基づ
き、南海トラフ巨大地震クラスの仮
定の被害情報を作成し、消防団、町職
員および災害対策本部に情報を付与
し、対応を実施した。実際の大災害
のように現場から大量の情報が錯綜
するような状況ではなく、比較的情
報量が少ないため、正確な情報の共
有化を図ることができた。

**【鬼北町移動系防災行政無線施設整
備計画について】**

問 現在の内容について

答 鬼北町移動系防災行政無線は鬼北
町消防団が運用しており、基地とな
る局が防災センターおよび日吉支所
の2局、防災担当職員および消防団
分団長以上の幹部の使用する携帯型
の局が18局、消防団車両に搭載する
車載型の局が36局、合計56局ある。

これらは、アナログ式の無線で同
時双方向通信は行えず、また旧町村
時の周波数のため、旧町村間の周波
数の異なる局同士では通信ができず、
効率的な情報伝達ができているとは

言い難い状況である。これらの課題
を解決するため、地域防災計画や長
期総合計画において、旧町村のシス
テムを統一し、合わせて双方向通信
が可能となるデジタル式へ更新整備
することとしてきたものである。

問 計画の取組状況について

答 本年12月末の業務完了を予定し施
設整備に係る設計業務を発注してお
り、来年度以降の工事実施につなげ
ていきたいと考えている。詳細につ
いては、現在検討中であるが、消防
団幹部である副分団長への携帯型
の局7局、消防団各分団が活動拠点と
する公民館へ半固定型の局6局、計
13局の追加整備を検討している。

また、車載型の36局は、携帯型兼
用のものにするにより、車両か
ら持ち出しが可能となるよう整備す
ることで検討している。

◆高田 幸也 議員

【平和行政・平和教育について】

**問 町が取り組む平和行政・平和教育
の内容、問題点や今後の計画につい
て**

答 本町の小学校では、総合的な学習
の時間や社会科の時間、修学旅行な
どの学校行事を組み合わせて、計画
的な平和学習を進めている。町内
でも、戦争の記憶のある方に当時の様
子など聞いた事例もあるが、年々、
お聞きできる方が減少していること
が課題である。

平和行政としては、平成23年度に
明星ヶ丘夏季企画展を7月23日から
9月4日まで、「今に伝える太平洋
戦争の記憶」と題して実施した。今
年度は、戦後70年企画展「くあれか
ら70年」語り継ぐ戦争の記憶展」を

来る11月14日から平成28年1月17日
まで、歴史民俗資料館で実施する予
定である。また、「『ぜいたくは敵』
」戦時下の食事を体験してみよう」
を、体験イベントとして、明星ヶ丘
いきいき会の協力をいただいで実施
する予定である。

【教育に対する件について】

**問 どのように一般社会の課題解決能
力等を教育するのか。**

答 道徳教育の目標は、自己の生き方
を考え、主体的な判断の下に行動し、
自立した人間として他者とともに、
よりよく生きるための基盤となる道
徳性を養うことである。道徳教育の
中で、限定的な課題解決能力等を身
に付けることが結果としてあるかも
しれないが、基本は心を育てること
だと考えている。

**問 ネット依存に対する取組み、保護
者や教師への啓発について**

答 鬼北町内の小中学校では、児童生
徒のパソコンを使った学習をするに
あたって、随時、情報教育に対する
マナーの指導をしている。

教師の自己啓発としては、昨年度
全教職員を対象に「サテライト講座」
を開催し、危険なネット依存から子
どもたちを守る研修を実施した。ま
た、生徒指導合同研修会において、
携帯電話業者を講師に、依存防止対
策を検討したところである。

さらに、PTA総会や地区別懇談
会の場で、家庭での情報通信機器の
取り扱いについて啓発活動を実施し、
携帯電話やスマートフォンを購入す
る際には、フィルタリングサービス
の同時加入をお願いしているところ
である。